

■ 使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■ 使用評価ソフト：CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	(仮称)キャリムエンジニアリング門司CR4期新築工事	BEE	0.7	BEEランク	B-	★★
------	----------------------------	-----	-----	--------	----	----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点※/満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	2.9 /5	  	がんばろ: 
2 地球温暖化対策の推進	3.8 /5	   	ふつう 
3 豊かな自然環境の確保	1.0 /5		がんばろ: 
4 高齢社会への対応	3.0 /5	  	ふつう 
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上  ふつう 3 点以上  がんばろう 3 点未満 

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版		使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)	
1 循環型社会への貢献		スコア平均 3.0	
リサイクルに関する配慮	スコア 2.5	長寿命化に関する配慮	スコア 3.2
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減		Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 3.2
特に配慮なし		Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3.2
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均 3.9	
省エネ・省資源に関する配慮	スコア 3.7	節水に関する配慮	スコア 4.0
LR3/ 1 地球温暖化への配慮		LR2/ 1.1 節水	
ライフサイクルCO2排出率は一般的な建物と同等。排出率は81%		トイレ手洗いの自動水栓、大便器(4.8Lタイプ)の採用	
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均 1.0	
生態系保全に関する配慮	スコア 1.0	緑化に関する配慮	スコア 1.0
Q3/ 1 生物環境の保全と創出		Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 1.0
特に配慮なし		LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 1.0
4 高齢社会への対応		スコア平均 3.0	
バリアフリーに関する配慮	スコア 3.0	主な指標	
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画		建物の外皮性能(BPI評価)	
特に配慮なし		非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級	
		建物的一次エネルギー消費量(BEI評価)	
		非住宅:BEI値、住宅: -	
		外構緑化指数	
		建物緑化指数	

: 入力欄

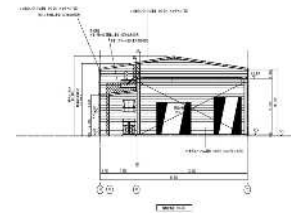
: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)キャリウムエンジニアリング門司CR4期新築工事	階数	地上2F
建設地	福岡県北九州市門司区大字田野浦961番6、7、12	構造	S造
用途地域	工業地域・臨港地区・景観形成誘導地域	平均居住人員	10 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年2月 予定	評価の実施日	2018年11月27日
敷地面積	10,896 m ²	作成者	柳武 勝巳
建築面積	4,810 m ²	確認日	2018年11月27日
延床面積	5,011 m ²	確認者	柳武 勝巳



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 0.7 ★★★★★ S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★ 環境効率 BEE 環境負荷 L	標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	Q2 サービス性能 Q1 室内環境 Q3 室外環境(敷地内) LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.4 音環境 2.3 温熱環境 2.1 光・視環境 2.6 空気質環境 3.1	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.9 機能性 2.8 耐用性 2.9 対応性 3.2	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 1.8 生物環境 1.0 まちなみ 3.0 地域性 1.0
LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.8 建物外皮の 4.7 自然エネ 3.0 設備システ 4.4 効率的 3.0	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.8 水資源 3.4 非再生材料の 2.5 汚染物質 3.0	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.9 地球温暖化 3.7 地域環境 2.0 周辺環境 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合 建築: FL5mm、断熱 壁(イソグレートフォーム35 鋼材共)、屋根(フネエス4mm)、空調換気: パッケージエアコン 全熱交換器、単相ファンによる第三種換気 照明: LED照明器具、給湯: 電気温水器+自動水栓の採用で1次エネルギー削減を図っている		その他 特になし
Q1 室内環境 事務所エリアの居室における空調設備はパッケージエアコン+全熱交換器により空調負荷軽減としている。	Q2 サービス性能 壁長さ比率が小さく、設備・空間のプランニングの自由度が極めて高く、広さ・収納性が十分に確保されているので、室内の機能性・使いやすさが確保されている。	Q3 室外環境(敷地内) 景観形成誘導地域に準じた室外環境となっている。
LR1 エネルギー パッケージエアコン+全熱交換器による負荷軽減等 B P I m=0.83 B E I m=0.66	LR2 資源・マテリアル 節水型大便器の採用(洗浄水量4.8L)	LR3 敷地外環境 一般的な敷地環境

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)キャリムエンジニアリング門司CR4期新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						2.3
Q1 室内環境			0.31		-	2.4
1 音環境		3.1	0.15	-	-	3.1
1.1 室内騒音レベル	一般事務所レベル 50dB	3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音		3.4	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能	FL5mm(T-1等級相当)	3.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能	遮音性能等級 Dr-40 (内壁構造体:PB12.5+A150+PB12.5)	4.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	
1.3 吸音	天井材:岩綿吸音板9.5mm貼	3.0	0.20	-	-	
2 温熱環境		2.3	0.35	-	-	2.3
2.1 室温制御		2.5	0.50	-	-	
1 室温	一般的な設定値である冬期22℃、夏期26℃で機器選定	3.0	0.38	-	-	
2 外皮性能	ガラス:U=6.00、SC=1.00 外壁:U=0.498 屋根:U=1.992	1.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性	冷暖切替パッケージの採用(使用形態に応じ、室別に系統考慮)	3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御	加湿の採用なし	1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式	室内機内蔵のセンサーによる気流・温度調整	3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		2.1	0.25	-	-	2.1
3.1 昼光利用		4.2	0.30	-	-	
1 昼光率	対象とする室(標準的な執務室):2階 事務室の昼光率U=5.49%	5.0	0.60	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備	該当制御なし	3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策		1.0	0.30	-	-	
1 昼光制御	該当制御なし	1.0	1.00	-	-	
3.3 照度	対象とする室(標準的な執務室):2階 事務室の平均照度 613(lx)	2.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御	2作業単位による照明器具ON/OFF制御	1.0	0.25	-	-	
4 空気質環境		2.6	0.25	-	-	2.6
4.1 発生源対策		3.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	建築基準法を満たしている。	3.0	1.00	-	-	
4.2 換気		3.0	0.30	-	-	
1 換気量	建築基準法(シックハウス対応含)を満たす(中央管理方式ではない)	3.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能	自然換気有効開口面積が居室床面積の1/50以上	3.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮	給気VC/排気口VCの間隔3.0m確保	3.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理		1.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視	CO ₂ 監視制御なし	1.0	1.00	-	-	
2 喫煙の制御	喫煙室の該当なし	-	-	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	2.9
1 機能性		2.8	0.40	-	-	2.8
1.1 機能性・使いやすさ		3.6	0.40	-	-	
1 広さ・収納性	2F 事務室 1人当りの占有面積 13.28m ² /人>12m ² /人	5.0	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応	30VA/m ² 以上、通信業者NTT(光)、電話・PC 2.5坪当たり1台以上設置	3.0	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性		2.6	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	2F 事務室 天井高さ2.65m、十分に大きい窓有	3.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース	休憩室 56.87m ² (自販機設置なし) 事務室面積の1%以上有	4.0	0.33	-	-	
3 内装計画	事務所と工場の機能の明確化	1.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理		2.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	フッ素ガルバニウム鋼板、鉄骨部溶融亜鉛メッキ仕上等	2.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		2.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	最も短い更新必要間隔 10年(7年~15年未満)を採用	2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		2.2	0.20	-	-	
1 空調・換気設備	空調系統の分散化	1.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	トイレ手洗いの自動水栓、大便器(4.8Lタイプ)	2.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法	水平震度 1.0	3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	テレビアンテナ(UHF)の設置、重要機器にはUPSの設置	2.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.2	0.30	-	-	3.2
3.1 空間のゆとり			3.8	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		事務所:1階 4.8m、2階 3.6m 工場:1階 14.1m	3.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ		基準階 外周壁の長さ/専用面積=292m/4805.87m ² =0.06<0.10	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.39	-	-	1.8
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		景観形成誘導地域に準じている	3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			1.0	0.30	-	-	1.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			1.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			1.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制		[BPI _m =0.83] 外壁:イソシアレートフォーム t34 屋根:フネンエースt4	4.7	0.02	-	-	4.7
2 自然エネルギー利用			3.0	0.12	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI _m =0.66]	4.4	0.61	-	-	4.4
4 効率的運用			3.0	0.25	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		トイレ手洗いの自動水栓、節水型大便器(4.8Lタイプ)	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		導入なし	3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		導入なし	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.5	0.60	-	-	2.5
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1 消火剤			3.0	0.33	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		外壁:ノンフロン(HFO)、屋根:オレフィンフォーム(HFC-134a)	3.0	0.33	-	-	
3 冷媒		R410a、R407C、R32採用 (ODP=0)	3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮		LCCO ₂ 排出率は一般的な建物と同等である81%(自動計算)	3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮			2.0	0.33	-	-	2.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			1.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.33	-	-	
2 振動			3.0	0.33	-	-	
3 悪臭			3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			1.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	